

## 瀬丸池 (せまるいけ)



### 諸元

貯水量	300.0 千m <sup>3</sup>
満水面積	4.8 ha
受益面積	28.8 ha
堤高	9.2 m
堤長	141.3 m

瀬丸池は、三豊市高瀬町大字羽方に位置し、2級河川財田川の支流宮川の細長い谷間の出口の地形「狭まる＝せまる」を活かして堰き止めるように築造されています。このため、今も夏季（春の彼岸から秋の彼岸まで）はため池、冬季は河川になるという珍しい慣行を持っています。

築造については2説あり、多くの文献において寛永6年（1629年）に西島八兵衛による築造とされていますが、「生駒記」の災害年表においては、寛永元年（1624年）に初ゆるとなっています。

築造当時は、高瀬町（羽方）と豊中町（上高野、岡本、本山）の146haの広範囲へ配水されており、古くには少ない水をめぐって、水争いが行われた記録が残っています。その後、各地で新田開発と共に、出水、ため池等の新設で用水事情が整備された地域が分離して明治初頃には70haと半減しました。近年では、昭和56年の香川用水導水による水事情の改善に伴う再編等により、40haほどとなり、周辺のため池へ配水する調整池として運用されています。

これまで、地形条件から洪水とともに土砂が堆積し易く災害も多かったことから、災害の都度、堤防の嵩上げや復旧を行ってきましたが、平成27年に堤体上の県道拡幅に併せて洪水吐、樋管、張ブロックの改修を行い、現在に至っています。



瀬丸池 (夏季)



瀬丸池 (冬季)